

第 2 回 三鷹市障がい者地域自立支援協議会
 地域課題の共有・協議について(発表シート)
 (令和 7 年 7 月 24 日)

部会長(発表者) 中野昭精

① 発表内容

部会名	生活支援部会
テーマ	以下の第三期三鷹市障がい者(児)計画の課題から、テーマを選択してください。 ① 障がいに対する理解の拡充 ② 安心して暮らせる地域づくり 3. 障がいのある人の自己決定の尊重と相談支援機能の強化 ④ 生活支援と家族支援の充実 5. 就労を含めた社会参加の推進 6. 一人ひとりの状況に応じた切れ目のないサポートの提供
具体的な 内容・事例	【前期までの課題と今期の活動について】 ○親なき後の備え → 講演会「家族信託・成年後見の活用について」 <u>R4.10.27</u> 開催 ○避難所運営体制の強化 ○発達障がい児等にかかる専門療育支援体制の充実 ○医療的ケア児への対応充実 ○障がい者を地域で支える担い手の充実 ○保健・医療・福祉・教育等の縦横連携の強化 今期部会では、上記のなかでも特に児童に係る課題が切迫しているということ とを共通認識とし、以下の 2 点に焦点を当てて取り組むこととした。 ●不登校児童の支援を中心とした教育との連携を模索 ●上記を含めた「誰でも立ち寄れる居場所づくり」 【教育との連携】 ●適応支援教室 A-room の見学 <u>R6.9.24</u> 【居場所づくり】 ●全国の事例を共有 ●心のバリアフリー「さかなのこ」上映 アンケート調査 <u>R6.2.4</u> 【前年度発表】 <u>R6.10.10</u> 部会からの発信 ●多様な課題全てに取り組もうとすると個々の進捗や成果が薄まる。部会 の再編成を検討できないか？

- 委員の負担を軽減するための効率化(Slackの利用)をできないか？
- 自立支援協議会の在り方を改めて考えたい。活発な自治体と形骸化している自治体で 2 極化している現状があるのでは。三鷹市の協議会活動について、各委員の率直な意見を伺いたい。

－ ここまで前回発表 －

→発表後の協議で出された意見(議事要旨より要約)

- ★協議会(親会)では発言しにくい。部会やグループになると発言しやすい。踏み込んだ議論をするには開催回数が少ない。テーマのある議案は、個人委員にとっては守備範囲でないと発言しにくい。実態調査のためだけの委員になってしまっている。委員の世代交代時に引き継ぎがない。
- ★扱う課題を絞り、細分化することも考えられるのではない。計画策定に追われて、議論の場としての機能が失われている。そもそも協議会は当事者がどう生きるかをとり上げて考える場である。生活支援部会の大きなテーマに「親亡き後」がある。その時が来ても、当事者が自立して人生を歩むようにする機会を作る、本当はそこに多様な支援が入るべき。
- ★立場を超えて色々な人が参加して意見交換できるところ、横のつながりが生まれるのが協議会の良さ。一方で、課題解決の取組にスピード不足を感じる。部会を再編・新設するよりも親会でテーマを決めて議論できないか。福祉計画の策定で大きく時間を取られるのはもったいない。委員と本業の両立でジレンマを感じることもある。福祉関係以外の委員には負担が大きいのでは。活動の目標(短期・中期・長期)が見えない。

【発表後の部会活動】

部会 R6.10.31

- A-room 見学振り返り

市内小中学校の児童・生徒数、A-room 利用者数からの分析共有
不登校児・生徒のうち A-room 利用割合概算… 40.5%

- バリアフリー上映会「こちらあみ子」 来場者アンケート内容の協議

●すでに活動実績のある「居場所」の共有→市内各法人の地域公益活動
バリアフリー上映会(こちらあみ子) R6.11.9 来場者アンケートの実施

★居住支援連絡会の創設 R7. 2. 25 第 1 回会議

市内グループホーム事業者が抱える居住支援現場の課題共有と連携

部会 R7.3. 7

	●活動振り返り ●重層的支援体制整備事業について情報共有 ●次年度に向けて 出た意見 ○協議会の存在や活動がまだまだ知られていない。福祉職・委員であっても十分な理解をしていないことがある。もっと周知する必要がある。 ○「福祉計画を作るための組織」という捉え方になっていた。部会は部会としての役割をはっきりさせるべき。課題解決の成果は上げたいが、次へ向けた提言という形も役割の一つかと思う。 ○地域ケアネット等のエネルギーな活動に、障害分野からも積極的に参加してはどうか。 【令和 7 年度 部会活動方針】 ～知らないことがたくさんある～ 「知ること・知ってもらうこと」を意識して、具体的成果に捉われず活動する。 他組織、団体の活動に積極的に出向き、話を聞く 1 年にする。 部会 R7.6.18 ●「知ること・知ってもらうこと」の具体化のために 重層的支援体制の理解を深める 市内福祉事業者・サービスの現況把握 ●バリアフリー上映会アンケート結果共有（回答:web5 件、紙 47 件） 出た意見 ○誰がいつどこに向けて何を発信していくのか？を明確にしたい。 ○昨年度より、部会で共有した事を発表会を通じて全体会でも共有しています。これを関係機関や市民などに共有する必要性があると感じていますが、どのようにすれば実現できると思いますか。その為に三鷹市(障がい者支援課等)や各事業者にどのような動きが必要だと思いますか。 ○各法人や事業所等に於ける課題・提案を深掘りし、共有したい。 → さらに市への要望と考え方(返答)を確認出来るように。 ※例えば、入所施設のガイヘル利用や高齢障害者の介護保険へのスムーズな移行などは 10 年以上提言しているが明確な返答がなく、課題もそのままの状態… この内容の発信・広く共有するには？ → 発信する媒体や方法を明確化。各部会委員分担して発信。 ※広く知ってもらうための取り組みを具体化したいです。 自立支援協議会を知らない関係者が多くいると痛感しています。
--	--

	○多様な機関の連携について 例：重層的支援体制（資料配布） →色々な会議体があるが、それぞれの目的・機能・構成や連携体制がよくわからない。国の基本方針に則って会議体及び計画が作られていると思うが、これらを体系的に理解できるよう視覚化してほしい。 （三鷹市に部署横断での依頼？）
協議会の場で行いたいこと	以下より、協議会の場で行いたいことを選択してください。 ○ 意見交換 ○ 情報共有（グループワーク形式で） ・ その他（ ） 「本業・協議会以外でも！」 多様な官民協働体制や会議体の存在を知る ① 事務局の方も各グループにお一人は入っていただき、みなさんが関わっている・知っている会議や活動(障害分野以外も)を出し合い、それぞれの目的・機能・連携体制、あがっている成果や難しいと思うことを紹介・共有して下さい。 ② 出し合った①を広く市民に伝えたい！そのアイデアを練ってください。 部会では「私たち自身も知らないことがたくさんある」と話しています。 ここで皆さんの活動を共有することは、協議会の議論を深めるベースにもなると思います(重層・包括的な連携の理解)。難しさを共有した事例は、そのまま協議会テーマである「地域の課題」へもつながるのではないのでしょうか。 また、頑張っていることや達成したことも共有したいです。事業者も自治体も日々大変です。「お互いよくやってるよね」と声をかけあうことで、これからの本業・協議会も頑張れるかも…
協議の結果を受けた今後の部会予定	未定
その他	